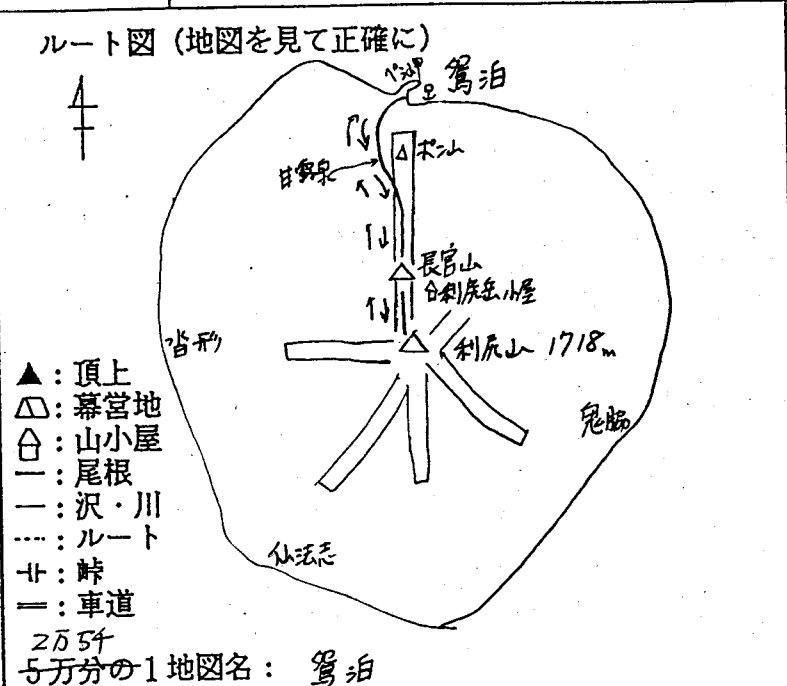


月度例会 (個人) 山行 集会報告書	報告者 報告日 大夫 10/9	参加 CL: 大夫
山域 山名 北海道 利尻山	山行日 91年9月29日(日)~ 年 月 日( )	メンバー -

山行目的: 日本最北の百名山に登る.      コースタイム (天候: 天気図記号)

配布先  
 集会: 8  
 山行: 1  
 リーダー  
 原紙: 集  
 会担当者



9/28(土)  
 22:00 札幌発  
 JR急行利尻

9/29(日)  
 6:00 稚内  
 7:10 フェリー-初花港  
 8:50 フェリー-鴛泊着  
 9:00 フェリー-ミナル  
 9:48 甘露泉  
 9:53 日本最北端の白名水  
 10:50 七合目下  
 11:00  
 12:08 1400m  
 12:13

12:44 利尻山ピーク  
 12:55  
 13:50 利尻岳小屋  
 13:55  
 15:05 甘露泉  
 15:10  
 15:55 鴛泊着  
 16:35 フェリー最終便発  
 18:20 稚内

<報告者所見> 当初は稚内まで飛行機利用により 9/28中に鴛泊まで行く予定であったが、9/28午前中は台風が北海道を直撃する為、飛行機が欠航になり、あわてて予約し直した夜の便で千歳空港まで飛ぶ。札幌発 22時のJR急行利尻に乗り、翌日6時、いかにも最果の駅という感じの稚内に着いた。朝一番のフェリーで利尻往復し、最終フェリーで帰るという強行軍その1。を考えた私は、鴛泊に着いたらすぐ出発できるように、フェリーに乗る前に準備する。天気は回復に向かい、利尻山のピークはガスの中。余分の荷物をフェリー-ミナルに預けて9時に鴛泊へ出発する。少し行くと甘露泉という“日本最北端の白名水”の看板が出た。水場もあり、のびのびと、間もなく稜線に取付くと紅葉の見事。振り返るとすぐ眼下に礼文島。少し離れて野納布岬と宗谷岬、その左にはるかかすむ樺太の真青の海の中に浮かび、長官山の利尻岳小屋を過ぎ、鞍部を通るとあとは

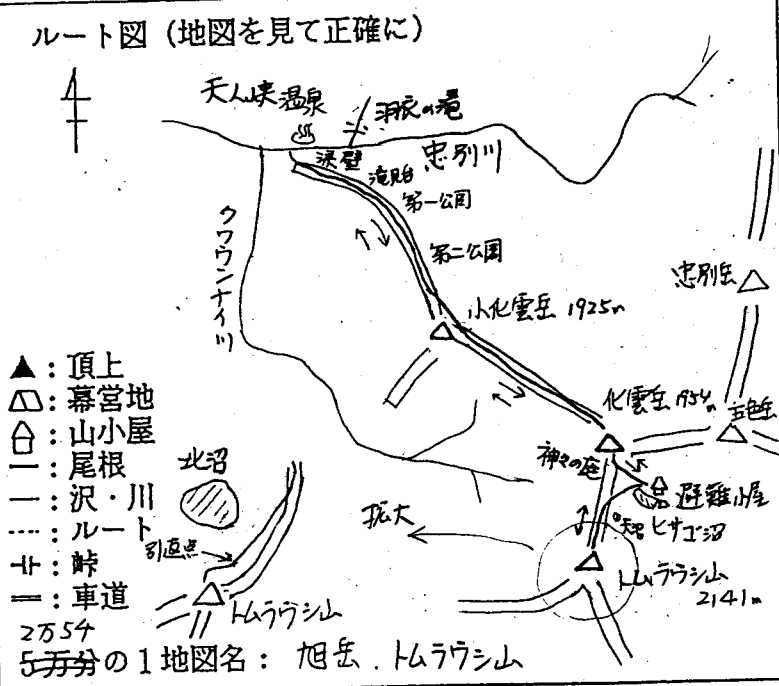
←サザン所見→ 最後の急登、火山灰の歩きにくい道の両脇は樹氷。ガスと風の中、頂上を目指す。9合目首形分岐から程なく頂上。一瞬ガスが切れると、すぐ周辺にローソク岩がそそり立っていた。首形から登ってきた人に写真を撮ってもらい下山。9合目でシマリスに会い、下の壺口晴れて、フェリー最終便にて礼文島に求む日本最北端の夕日をビル片手に見ていると、あった満足感にひたった。

フリースペース  
 山の紹介・スケッチ・エピソード・その他自由に  
 かきこいていた。首形から出会う。下の壺口晴れて、フェリー最終便にて礼文島にこみ入れて十分来た甲斐

月度例会 山行 集会報告書 報告者 報告日	大天 10/9	参加 CL: 大矢
山域 山名	北海道 トムラウシム	山行日 91年9月30日(月)~ 年10月1日(火)

山行目的	大雪山系を知る	コースタイム (天候: 天気図記号)
------	---------	--------------------

配布先  
 集会: 8  
 山行: 1  
 リーダー  
 原紙: 集  
 会担当者



9/29(日) 22:03 稚内発(JR)	12:55 13:05 1933m 2バツ着
9/30(月) ●3:22 旭川着 4:20 フクシマで天人峡 2時間寝る ◎7:00 天人峡発 7:50 8:00 羽衣の滝滝見台 ●8:30 カッパ着 8:35 9:20 1100m 第一公園 9:30 ◎10:20 1400m 第二公園 10:30 11:35 1700m 11:50	◎14:15 ヒサジ沼 避難小屋 10/1 4:50起床 ◎5:20 発 6:25 天沼 6:40 7:43 頂上直下30m 北斜面トラス2等フタ 危険度が引退す 9:30 小屋 10:00 11:00 15) 化雲岳 12:15 11化雲岳下 12:30 13:30 第一公園 13:45 15:10 天人峡

<報告者所見> 利尻山往復の後、"強行軍その2"が待っていた。JR稚内発22時、小雨の降る旭川に3時過ぎに着くと、その翌フクシマで天人峡へと向った。(10,400円)。バス10台ほど止り、私共も夜行の連続はこたえたので、天人峡で2時間程寝た。6時半に起きて外を見ると七福岩と呼ばれる柱状節理が見事。クマヤシの鏡を腰につけて出発。トムラウシムの麓は涙壁という急斜面の登りから始まる。天人峡名物"羽衣の滝"の滝見台で一息。夜の静けさ、七段の滝、眺めは絶景。そこからしばらく行くと雨が降り出す。第一公園から第二公園へと続く湿地帯はドロドロ歩きにくく、道が川か、川が道か山から流れておぼ道であった。小化雲岳をトラバースしたあたりから積雪があり、ガスの中、たつた広尾根の下時々道をはずしそうになる。化雲岳頂上には"化雲岳のハッ"と呼ばれる大岩があり、強風の中写真だけ撮ってヒサジ沼へと下る。避難小屋はわりと新しく風も

←サダ所見> シャットアウトされて快適。テントを張るのにフリースペース山の紹介・スケッチ・エピソード・その他自由に

んだ。小屋には私共他誰もおらず今夜は貸切りだと思っていた。天気図をよって、最中にトムラウシム方面から来た単独の人が入ってきた。外はわりと冷え込んで、夜水汲みに行ったらこたえた。翌日、4時起床かつおひか 4時50分、あつたジーンズとコーヒーをかき込む。前夜のうちに持っていくものの準備はしておいたので、30分でお出立5分くらい歩くと、石狩岳からニバツツへと続く東大雪山の山から日が出た。稜線にお旭岳方面が見えたが上部は真白であった。真下のヒサジ沼の向うに沼原、沼、朝日

〒 \_\_\_\_\_  
↑  
〒 \_\_\_\_\_

NO.			
作成	年	月	日
	部		課

配布先	

をキラキラ反射しており美しい。大小の沼の側を通り、北沼の右から  
トムラウシの頂上を目指す。最初は岩のゴロゴロする登りから、クラストホ  
北斜面のトラバースに入る。昨日小屋に一泊に泊った人のステップがあるのだから  
今日はキックステップと切ろうにも歯が立たない堅雪である。頂上の手前、標高  
にはあと30mくらい、の所のトラバースを3回試みたが、アイゼン・ピッケルがな  
やばいので遂に諦めて小屋へ引返す。10時、小屋より下山。“神々の庭”  
から振り返るトムラウシは、まさに天上の山だ。昨日と打って変わって今日は  
良き天気でTシャツ一枚でいい。化雲岳からは“北に大雪、南に十勝”の大展望  
本当はこの文句をトムラウシ頂上で口にしかつたのだから……。小化雲岳を  
下る途中で、かの有名なナキウサギに出会った。ここから見る旭岳は、上部が  
雪、中部がハイマツ、下部が紅葉。三段ゾメであった。第二・第一公園の  
湿地帯はかなり乾いてきており、歩きやすくなっていた。天人峡まであと1時間の  
ところで、新鮮なヒグマのフンを2ヶ所、ツメ跡及び木の皮を数ヶ所に  
わたって見つけ、しまいかけていたクマよけの鈴をあけて取り出した。出会い頭  
が恐くて走るわけにもいかず、天人峡へ着くとホッと胸をなでおろした。下山後  
は天人峡温泉にて旅の疲れをいやした。

<所見>

1. 飛行機欠航の為、日程が半日遅れたが、利尻山のコースを駕泊  
一泊形から、駕泊よりピストンにすることにより計画通りにトムラウシに行けた。
2. 9月末～10月初は、北海道の山は初冬の山であり、9/29.30と直前に  
降雪があった不運もあったが、アイゼン・ピッケルは持って行くべきだった。
3. この時期のクワウンナイ川逆行は、美瑛町役場の指摘通りやはり  
遅く、来年の夏にトムラウシ完登も含め改めて計画したい。

経路  
作成部署↓報告部署  
保管  
写原紙  
年 年

承認
検討
作成